

2026年4月臨床データサイエンス学環開設

このたび、本学では、少子高齢化と医療の地域格差が深刻化する中、社会の要請に的確に対応できる「医療人としての視点」に立ったデータサイエンティストの養成を目的として、「臨床データサイエンス学環」を設置します。



修業年限：4年 学位：学士（臨床科学） 入学定員：15名

臨床データサイエンス学環 特設サイトはこちら ▶

医療・福祉DXの推進

日本では少子高齢化と人口減少が急速に進出し、特に北海道では65歳以上の高齢者が人口の32.5%を占め、地域医療や福祉サービスの維持が深刻な課題となっています。こうした状況の中、「医療DX令和ビジョン2030」などにより、医療・福祉分野のデジタル化（DX）が推進されています。実現には医療・福祉の現場を理解し、データサイエンスの知識を活用できる人材が不可欠です。しかし、国内ではAIやデータ分析の専門人材が不足しており、特に医療・福祉分野での人材育成が急務とされています。

北海道医療大学の取り組み

【社会課題】医療・福祉DXを推進できる人材が求められている

【解決策①】
データサイエンスの知識とスキルを
有した医療・福祉職の育成

【解決策②】
医療・福祉を理解した
データサイエンティストの育成

独自のデータサイエンス教育プログラムを構築

【取り組み①】
全国の医療系総合大学で先駆けて
全学部でデータサイエンス教育を実施

【取り組み②】
2026年4月
臨床データサイエンス学環を開設

【社会的価値】医療・福祉DX人材の育成、医療・福祉DXの推進

北海道初の「学部等連係課程」で、データサイエンティストを育成

学環とは、学部でも学科でもない、複数の学部が連携した学部等連係課程です。看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部、医療技術学部が連携して、医療・保健・看護・福祉・心理分野を横断的に学ぶことができ、これまで本学が培ってきた「医療系教育」「多職種連携」「先進的なデータサイエンス教育」を融合した新しい学びの形です。

医療・福祉科目を学ぶ

医療・福祉の知識を身につけ、理解し、現場の問題・課題を自ら考える力を身につける

少人数で学ぶ

一人ひとりに合わせたサポートと、個別指導が可能な環境で学ぶ

AI・データサイエンスを学ぶ

ビッグデータを扱い、IT・AIに関わる利便性やリスクも適切に理解したうえで、データサイエンティストとして必要な知識・技能を身につける



インターンシップ

医療機関やスタートアップ企業で実務経験を積み、即戦力をめざす

多職種連携を学ぶ

各専門職の視点を理解し、「より良い医療」を考える力とコミュニケーション能力を身につける

EDITOR'S NOTE

今年の夏、日本列島は記録的な猛暑に見舞われました。北海道でも35℃を超える日が続き、観測史上まれな「猛暑日」が相次ぎました。避暑地とされてきた北海道までも酷暑に覆われたことは、全国的な地球温暖化の影響を強く実感させる出来事です。「涼しい北海道ではエアコン要らず」と考えていた人も、今年ばかりは真剣に購入を検討したのではないのでしょうか。こうした暑さは一時的な異常気象ではなく、「これからも続くかもしれない現実」として受け止める必要があります。日常生活や健康、農作物、自然環境など幅広い分野に影響するため、暑さ対策やエネルギー管理はもはや避けられない課題となっています。

一方で、教育界における「熱い話題」といえば生成AIの活用です。文章作成や要約、アイデア出しなど、時間のかかる作業を効率化できる点で注目を集めています。授業資料やワークシート作成、授業の導入アイデアにも役立ちます。さらに、生成AIは新しい視点や表現を提示することで、創造性を刺激する効果も期待できます。ただし、生成AIの出力には誤りや曖昧さが含まれることもあり、人間による確認と修正は欠かせません。AIに頼りすぎれば、自ら考えたり表現したりする力が弱まる危険性もあるため、生成AIは「便利な補助ツール」として位置づけ、主体的に考える力を維持する姿勢が求められます。

猛暑も生成AIも、私たちの「対応力」を試す存在です。AIを上手に活用し、暑さにも工夫して対応する……そんな柔軟な姿勢もこれからの社会を生き抜くための大切な力といえる気がします。

(R.C記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.185

STAFF ● 町田 拓内 鹿内 浩樹 會田 英紀 根津 尚史
内ヶ島 伸也 片山 寛信 鈴木 和 青藤 恵一
上河邊 力 長谷川 純子 山田 桃子 葛西 聡子
近藤 啓 高橋 祐輔 山田 千葉 三川 清輝
小林 昭博 南谷 賢宏 今井 結香

発行日 ● 2025年10月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

TEL: 0133-22-2113

https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail: nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。